

みえ ケア ア マ ネ 通 信

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

〈事務局〉

〒514-0003 三重県津市桜橋 2丁目131

三重県社会福祉会館 1F

編集：広報部会

電話 059-213-7766

FAX 059-213-7765

<http://mie-cma.com/>

〈発行者〉

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

会長 奥田隆利

表紙写真：紀北支部 井谷 礼



一般社団法人

三重県介護支援専門員協会

会長 奥田隆利

次期介護保険事業計画等に関連して

会員の皆様方におかれましては、平素より当協会の事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルスおよびインフルエンザウイルスの感染対策に細心の注意を払いながら、利用者様の自立支援とQOLの向上のために尽力されている皆様に敬意を表します。

いよいよ第九期介護保険事業計画策定に向けて各市町における策定委員会が開始いたします。次期改定は、診療報酬との同時改定となります。まずは、夏頃までに第八期介護保険事業計画の評価を行い、

その際に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が実施されます。市町によっては、介護支援専門員に対するニーズ調査を行なう保険者もあります。在宅における介護現場での課題を利用者様やそのご家族様の目線で訴えることができるのは我々介護支援専門員です。ニーズ調査および地域ケア会議にご協力いただきますようお願いいたします。

目前に迫る二〇二五年、そして二〇四〇年を視野に入れた様々な課題や目標（地域共生社会、認知症施策対策、ヤングケアラー、仕事と介護の

両立、重層的支援整備事業、科学的介護、生産性の向上、ICTの活用、身寄りがない人への対応、意思決定支援等）に対応し、「利用者本位」に立ち、次世代に求められる介護支援専門員の姿をしっかりとイメージし、皆様と共有していく必要があります。

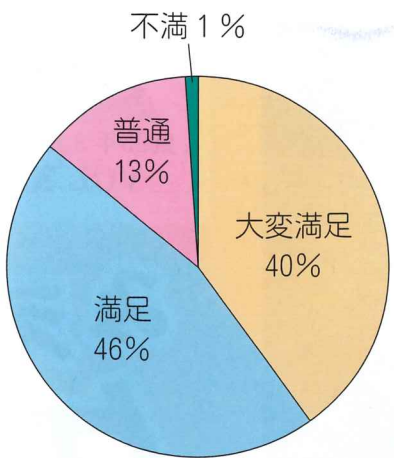
平成二十八年度に見直された介護支援専門員の法定研修が令和六年度に新しいカリキュラムに見直されます。前述した、利用者様を取り巻く環境の変化により発生した様々な課題や目標に対して、幅広い視点で生活全般を捉え、生活の将来予測や各職種の視点や知見に基づいた根拠のある支援の組み立てを行うことが我々に求められています。そのことを踏まえ、法定研修のみでは完結できないカリキュラムを、法定外研修（当協会や各地域支部独自の研修等）で補完していく、連動していく必要性が生じます。今後は、当協会の主力事業であります研修事業の重要性が高まるものと考え、さらに研修の資質向上に向けて努めてまいりますので、会員各位のご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

令和5年度三重県介護支援専門員協会 法定外研修について

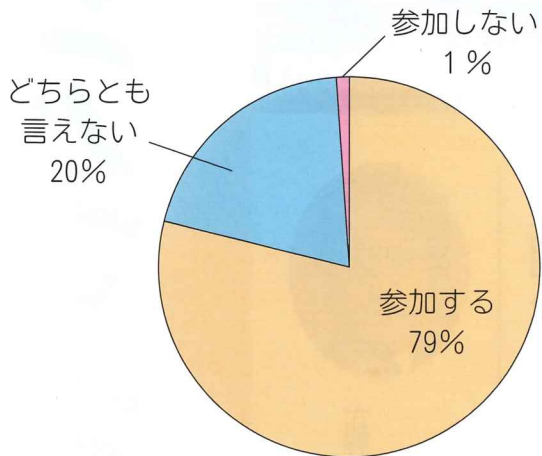
三重県介護支援専門員協会 副会長 小川竜司

会員の皆様方におかれましては、当協会研修事業にご理解ご協力を賜り、誠に有難う御座います。
さて、法定外研修の企画運営を行う研修部会では、令和五年度研修に向け、研修後に行うアンケート結果を基に、評価の高い研修やリクエストの多い研修を、初任者・管理者・施設介護支援専門員等にも参加頂ける研修を企画しております。
今回、令和四年度に実施した第一～八回研修までのアンケートを基に、皆様からのご意見を参考とし、研修実施方法の見直しを行い、会員の皆様には、より質の高い研修を提供したいと考えております。

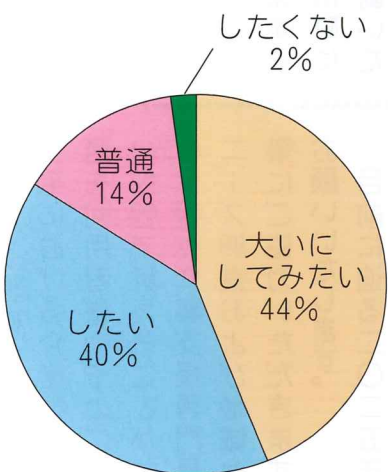
【研修アンケート結果について】
令和四年度第一～八回研修アンケート回答の中から、ご意見を抜粋し紹介致します。



② 第2弾があれば参加したいですか？



③ 今後もWEB研修を活用したいですか？



④ 特に満足した点、不満を感じた点についてご意見をお聞かせ下さい。

- 改善の可能性を探ること、そのために提案をすることを学びました。ケアプラン作成に関して、新しい情報を頂けたのも良かった。
- 自分の言動に注意が必要だと振り返りになったので、参加して良かったです。
- グループワーク時の役割など番号等で決めて頂けると時間の節約になるように思いました。
- 地域包括支援センターに勤務し1年と半年になりますが、母と息子というパターンの支援がいかに難しいのかを痛感しています。本日の研修に参加して、そ

の特徴や介入のポイント、分離を検討する例の特徴など言われてみれば、「そうそう！」と納得できました。ありがとうございました。
グループワークで文章を説明するのが難しく、画面を共有して、アローチャートを作成できるとスムーズに話し合いができたと思う。
他にない角度からの切り口で、アセスメントの考え方を学ぶことができ、とても良い時間を過ごせた。
満足に感じた点は管理栄養士の方の仕事について理解できたこと。不満に感じた点は、グループの方との意見交換をしたかった。摂食、嚥下時のメカニズムは舌や歯、嚙む力等、利用者さんの状況把握が出来てないこと、トロミのつけ方も曖昧だったこと、むせた時に背中をたたく等間違った理解をしておりました。また自身の栄養状態が悪い事がわかりました。また利用者さんの食べれない要因をしっかりと把握し他職種と連携し少しずつでも食べられるように支援していきます。
今までなんとなく曖昧に行っていた業務が、実は法令順守に反しているという事が明確になり、日々の業務をブラッシュアップする機会を貰った事。

- 途中、テキストが進む速さについて行けず、メモも間に合わなかった事が残念です。
- コーチングを行う事により、自身の振り返りとセルフコーチングに結びつける事が出来た点です。先生、大変分かりやすく明確な御伝達を有難うございました。感謝を申し上げます。
- 聴くスキルを知り、相談援助の仕方が間違っていたことに気付きました。
- コロナ禍で他事業所のCMと対話する事が減り、情報が偏りがち。同じ悩みを抱えてみたり、共感できる話が聞け、明日への励みになった。
- 利用者、家族のゆらぎに寄り添いながら、CMも揺らいでもいいんだと思えた。

⑤ ご意見ご希望等ございましたら、ご記入下さい。

- 質問時間をとる時間を多くみてもらいたい
- 今後もWebシステムを採用して欲しい。
- やはり対面での講義が聞きたいです。
- 入室の時間をもっと少し早くして、研修時間まで余裕を持てるようにして欲しい。
- Zoomのパスワードは、1週間前頃に送ってもらえると、焦ら

- なくて助かります。
- 居住地が遠方の為、今までは中々参加できなかったが、Webを利用しての研修だと職場や自宅に居ながら参加できるので嬉しいです。これからは出来る限り参加したいと思えます。
- ケアプランの勉強会を定期的にして欲しい。勉強会をして頂けたら、他のケアマネにも紹介したいと思えます。
- 休憩時間を適宜取って欲しいかったです。
- Web研修五百円は高い。手数料二百二十円も高い。
- 研修資料はメールで送って頂きたいです。苦勞しました。
- 参加費ですが年会費からの拠出は難しいのでしょうか？
- Web研修が始まって2年以上になるのに、Web研修の質問は不要だと思えます。
- Web研修は苦手です。けれど仕方ないとも感じています。
- 時間がもう少し短縮できないのか。世の中の仕組みが、コロナにより変わってしまった。実際に会場で会って意見交換するなか、雑談の中で共感できたりして、ストレス緩和にもなっていた所もあるが、グループワークとはいえWebではそれが出来ないから一長一短です。資料準備も大変です。インクがすぐなくなるので。

【令和五年度研修実施方法の見直しについて】

アンケート内容による、会員様のご意見から、令和五年度研修において、実施内容を以下のように変更させて頂きますので、ご理解の程、宜しくお願い致します。

- ① 研修時間の見直しについて**
講師からの講義時間を二時間（講義内容によってはグループワークを含む場合もあり）へ変更。
- ② 講師への質問時間を増やす**
従来では講師の講義時間内に質問受付を行っていましたが、令和五年度研修より講義時間終了後に、三十分間の質問時間を設定。
- ③ 情報交換専用ブレイクアートルームの設定**
質問時間終了後、希望される受講者にブレイクアートルームを三十分間設定し、雑談、情報交換を行う場を設けます。
- ④ 研修修了証明書発行**
令和四年度研修までは、講義終了（三時間）まで退席されなかった受講者に対し修了書を発行しておりましたが、令和五年度より講師からの講義終了（二時間）まで退席しなかった受講者に対し修了書を発行します。よって、講義（二時間）↓質問時間（三十分）↓情報交換ブレイクアートルーム（二十

- 分）の合計三時間研修へと変更となりますが、質問時間と情報交換ブレイクアートルームへの参加は自由参加形式とします。
- ⑤ 集合形式研修への検討**
アンケート結果では、Web研修を継続希望と集合形式研修の再開希望と賛否両論の声が多くありました。令和五年度においてもコロナ禍による感染流行期が予測されており、第一回研修から集合形式研修へ変更することは難しいと判断し、上半期研修は今まで通りWeb研修とし、上半期の状況にて判断し、下半期より集合形式研修へ移行できるか検討して参ります。
- ⑥ 研修申込手続きの変更**
令和四年度より、イベント参加Webシステム『イベントペイ』を経由した参加申込へ変更しておりますが、受講者の利便性向上と負担軽減を目的に、令和五年三月より『PassMarket』へ変更させて頂きます。
支払い手続きの変更によるメリットとし、
① コンビニ払い手数料の軽減（二百二十円↓百六円）への軽減
② クレジット決済が可能
③ PayPay残高決済が可能となり、今まで以上に利便性が向上し受講者の負担軽減に繋がると考えます。

松阪支部



PR ①年10回の研修会開催②行政との連携・協議③会員アンケートの実施と分析④広報活動を4本柱として支部活動を行っています。現在は、保護課との連携マニュアルを作成中。

📝 コロナ禍で開催できずいた多職種連携研修会を、10/27にzoom開催。「認知症の人と家族の会」の活動や家族の体験談を多職種で共有し、ブレイクアウトルーム(写真参照)で意見交換しました。特に、家族会の様子を録画した映像が好評でした。

👉 会員数が300名を超えました！身近で相談しやすく、頼りになる存在であり続けるために、29名の理事が力を合わせて活動していきます。

💬 12/18、コロナ禍で2年間延期されていた「みえ松阪マラソン2022」が三重県下唯一のフルマラソン大会として開催され、約1万人のランナーが全国から参加。私は応援組ですが♪(笑)

✉ caremane@matsusakawel.com

鈴鹿支部

こんなことはありませんか？

- 対象者のことを考えて眠れない
- 私がやらなきゃならないと頑なに思う
- 私は役に立っていないと感じてしまう
- 他者から疎遠であると感じる
- 些細なことで怒りを爆発させたり、イライラしてしまう
- 仕事仲間が信頼できない
- 支援者という自分の仕事が好きでなくなった



PR 令和4年4月より公式LINEを開設しました。「常時持ち歩くことは大変な情報」がスマホでさっと見ることが出来ます。

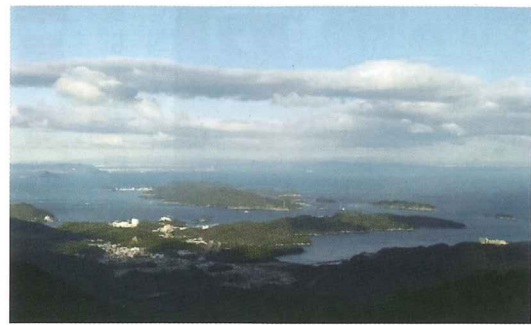
📝 今年度は「ACPのきっかけづくり」「支援者のメンタルヘルス」「障害者総合支援法」「DXについて」の4研修を行いました。その中でも鈴鹿市にある「森本メンタルクリニック 森本義典先生」をお招きした研修は特に好評で、支援者がトラウマインフォームドでない関わりをしないよう気を付けたいと、再認識できました。

👉 高名先生だけでなく、自分たちの地域にいる方に依頼することで、より専門的な研修の計画だけでなく、基本的なことも抑えられる研修計画をしていきたいです。

💬 3年ぶりに津支部さんと合同研修の開催ができました。以前の通り…とはいかなかったですが、ZOOMにて「あたご研究所 後藤佳苗先生」の研修は聞きやすく、多くの方に参加していただきました。

✉ mie.cm.suzukameshibu@gmail.com

南勢志摩支部



PR 南勢志摩支部では、月に1回程度、運営委員会を開催し、年に複数回の研修会の企画・運営を中心とした活動を行っています。

📝 第一回研修会：訪問看護ステーションほたるいせ管理者の岡田まり氏を講師に迎えての「訪問看護師とケアマネジャーの協働とは」～顔の奥が見える関係作り～が参加者の皆さんにとっても好評でした。

👉 まだコロナ禍が収まらない為、研修会もオンライン研修が中心となっていますが、次年度はぜひ、同じ地域で活躍するケアマネジャーが同じ会場に集まり、ともに学びを深めたり、顔の見える関係作りを再開できる事を心待ちにしています。

💬 南勢志摩地域では、コロナ禍で中止となっていた伊勢まつり、鳥羽の日など、地域のお祭りなどが久しぶりに再開されたり、伊勢神宮などにも観光客の賑わいが戻ってきています。

✉ now2just7relax@gmail.com

津支部



PR 年に5～6回程度の勉強会を開催し、研鑽を重ねております。

📝 津市役所介護保険課との質疑応答 鈴鹿支部との合同勉強会(アセスメントについて)。

👉 会員の皆さんが有意義と感じて頂けるような勉強会が開催できれば。

💬 3年ぶりに、「津まつり」が開催されました。しかしながら医療・福祉業界が制限解除するには、今しばらく時間がかかりそうな印象です。

✉ day-wagaya@tuba.ocn.ne.jp (支部長)

✉ tlsshisei@zd.ztv.ne.jp (事務局)

紀南支部



PR 地域に密着した支部活動を目指し、会員間の繋がりはもちろんのこと、各市町地域包括支援センター・紀南地域包括ケア研究会「いころ」・紀南地域在宅医療介護連携支援センター「あいくる」及び紀南医師会等と重層的な活動をしています。また、過疎地域ならではの顔の見える連携を大切にしています。

📝 ケアマネジャーはコロナ禍で日々、運動不足の状況であり、ストレスも溜まっていく業務に追われているので、紀南病院津呂橋優理学療法士による「自宅でできる運動習慣」をテーマに講義並びに実演をしていただきました。また、支部会員にコロナウイルス抗原キットを配布し、大変好評でしたよ。

👉 もっと体を動かし、ストレス軽減・仕事効率化が図れるようにアクティビティを取り入れた事業運営をしていきたい。

💬 令和4年11月に3週にわたり、熊野花火大会が3年ぶりに開催されました。3週目には鬼ヶ城仕掛け花火が実施され、冬の空を彩りました。令和5年度の8月17日が楽しみです。

伊賀支部



PR 伊賀支部は、伊賀・名張の2市で構成されているため、各々の違いや良さを取り入れながらの運営です。時節柄Zoomでの会議が多いですが、少人数ならではの気さくな雰囲気も特長です。

📝 「困窮者支援制度」についての研修は、制度理解の枠を超えて相談援助の基本姿勢や心構え等講師の熱い思いが伝わり、自身の業務を振り返る良い機会となりました。

👉 体制も新しくなり、ケアマネ同士が顔の見える関係を築き、地域課題にも取り組んでいけるような活動を目指します。

💬 規模が大きくなった今年の「幽玄の竹あかり」は、10月から1月まで約2000本の竹灯りが赤目の滝を染め上げるライトアップイベントです。竹を通して浮き上がる温かな光が赤目渓谷に映える様子は、幻想的でゆったりとした時間を感じる事ができます。

✉ keamanekyoukai.igasibu@gmail.com

支部だより

各市町では、コロナ禍で止や延期になっていたお祭りやイベントが再開されるようになってきました。まだ感染症対策は必要ですが、明るい兆しが出てきたように思います。今年度は、皆さんと顔を合わせて情報交換が出来るのが嬉しいですね。

PR 支部活動PRを紹介。

📝 令和4年度開催の研修会を紹介。

👉 次年度に向けての抱負や目標を一言。

💬 担当編集者のつぶやき

紀北支部



PR 私たちが活動する紀北(きほく)地区は県の南部、東紀州に位置しており、22名の会員で活動を行っています。コロナ禍の影響で、会員同士集まる機会は今年度についても自粛が続いています。また異動や転職に伴う会員数の減少が続く、支部活動の運営にも大きな影響を与えています。

📝 今年度初めての試みとして、支部共催の研修会を開催しましたが、支部単独では実現不可能な内容を、支部会員が学ぶ機会を得た事を感謝しております。

👉 来年度につきましても、引き続き研修会については、オンラインツールを採り入れるなどして会員向け研修の機会を確保していきます。

💬 世の中アフターコロナに向かいつつありますが、感染のリスクを抱えながらも日々現場で活躍されている皆様、コロナ禍前の世界に戻るまでには、まだまだ程遠い状況ですが、少しずつ前に進んで行きましょう。おわせ港まつり・きほく燈籠祭が3年振りに開催されました。(画像：紀北町・燈籠祭)

✉ mie.kihoku.cmn@gmail.com



PR 偶数月の研修会は継続できています。コロナ禍によりコミュニケーションの機会が減っている中、ZOOM研修でグループワーク中心にケアマネ同士の繋がりを深めてます。又ホームページを活用して頂けるよう広報活動にも力入れています！

実例を通し、コロナ対応についてケアマネの苦悩と題し、課題等を検討した研修は、実践的で好評を頂きました。又、BCPを考えていく上で、市役所が地震発生により、業務停止の状況・発災時の職員体制等の話を聞き、自分たちケアマネがその日の事を想像しながらグループワークで話し合い、防災への意識を高める研修となり好評でした。

三泗支部への入会大歓迎！！会員数200目指します。

延期になっていた第15回かもしかハーフマラソン（菟野町）が10月に開催されました。（気持ちだけ参加）

✉ mie.care.association.branch@gmail.com



PR 桑員支部のキャッチコピー「わ」になって～ひとりの力をみんなの力に～コロナ禍で集合研修は開催できませんでしたが、オンライン研修にいち早く切り替えたことで、多くの方がオンライン技術を習得され、支部研修を事業所の研修計画として位置付けられております。どんな状況下でも相談し合える場づくりとして、今年度下半期よりオンライン研修後には会員同士の交流会を企画し、参加の呼びかけを行っております。

志摩市民病院の江角雄太院長に医療と介護の連携、超高齢化社会に求められるケアマネの役割等、2回に分けてご講義頂いた。医療と介護が協働で地域を支えていくことの大切さや専門職としてのやりがい等、熱弁され、地域全体の課題として考える機会となった。毎年度、会員からの希望や時流を把握し、期待に応えられるような研修を意識して企画しています。

ケアマネジメン新時代の幕開けともいわれる24改正に向けて情報発信をしていきたい。引き続きオンラインでの研修が予想され、オンラインでも質の高い事例検討や演習ができることが目標となります。

3年ぶりに石取祭が開催され桑名も賑やかさを取り戻しました。

令和5年度上半期研修会

令和5年度研修会は、講義終了後に質問タイムと情報交換タイムを設けます。こちらは自由参加ですが、お時間の許す方はぜひご参加ください。質問タイム 15:00～15:30 情報交換 15:30～16:00（総会記念講演は除く）

	開催日時	テーマ	講師（敬称略）
第1回 (WEB)	4/15 (土) 13:00～15:00	○介護予防サービス・支援計画書の立て方	三重県介護支援専門員協会 理事 倉田 理
第2回 (WEB)	5/20 (土) 13:00～15:00	○災害支援ケアマネジャーフォローアップ研修（仮）	三重県介護支援専門員協会 災害対策委員長 塩井 崇
総会 記念講演	6/17 (土)	調整中	調整中
第3回 (WEB)	7/15 (土) 13:00～15:00	○認知症の理解と対応～BPSDのある方への対応～（仮）	三重県立看護大学 教授 六角 僚子
第4回 (WEB)	8/19 (土) 13:00～15:00	○ケアプランに求められる思考過程	埼玉県立大学研究開発センター 教授 川越 雅弘

※第5回以降の研修については、決定次第三重県介護支援専門員協会ホームページでご案内いたします。

ケアマネジャー総合相談

三重県介護支援専門員協会 副会長 久保田 久美

三重県地域医療介護総合確保基金「ケアマネジャー総合相談」事業も十年目を迎えました。今年度も既に8事業所様から依頼を頂いております。

以前はアドバイザーが事業所を訪問して行っていました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防という観点からZoomを使用しオンラインで実施させて頂いております。意見交換の内容は、日常業務の中で疑問や不安に思っていること、具体的にはサービス計画書の作成や長期目標・短期目標の考え方、暫定プランの考え方、支援経過記録の記入内容、モニタリング、軽微な変更、医療サービスの利用等、多くの相談をお受けしております。

また、令和三年度の介護報酬改定（ICTの活用、BCPの作成等）についても意見交換を行っています。利用後のアンケートでは、「相談を行うことで自身の考え方をまとめたり振り返ることができた。」



また、新たな視点や考え方も得ることができた。「考え方に幅を持つことができた。正解というよりも本質の捉え方を教えてもらった気がしました。」等、好評を頂いております。ディスカッションを行うことにより、業務の自己点検にも活用していただけるのではないのでしょうか。居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・施設、それぞれに対応できるアドバイザーが相談をお受けさせて頂きます。お気軽にお問い合わせください。

日本介護支援専門員協会 第二回小規模多機能型居宅部会報告

三重県介護支援専門員協会 副会長 長谷川 真介

（看）小規模多機能型居宅介護の手引についての手直しが行われ、BCP作成、ACP、ハラスメント、ICTの項目を追加しました。この手引き改定を、「小規模多機能型居宅介護ケアマネジメント実務の手引き研修会」として昨年十一月二十三日に開催しました。小規模多機能型居宅介護を対象とした研修会は少なく、継続して開催してほしいという意見が出ました。また、大きな基礎的な部分は日本協会が行い、地域密着型事業でその地域ならではの事例を提供して深堀をするなど、各都道府県支部が地域の実情に合った研修を開催できるのではないかという意見も出されました。

諮問事項の答申作成づくりでは、次期介護報酬改定に向けた対応を検討する中で、コロナで正しい評価が得られているのか疑問視する意見が出ていました。諮問事項の答申作成づくりでは、次期介護報酬改定に向けた対応を検討する中で、コロナで正しい評価が得られているのか疑問視する意見が出ていました。

（看）小規模多機能型居宅介護のケアマネジメンの課題ではコロナ禍でサービス担当者会議の開

催が書面となり現状把握できていない点や、主任介護支援専門員の不足が大きな問題として挙げられていました。「一人ケアマネ」では指導実績を作りにくい点も課題であり、次回改定では対応策も検討してもらいたいとの意見が出ていました。運営面においては、運営推進会議では担当者会議同様に書面対応を行っている事が多く、地域での（看）小規模多機能型居宅介護事業活動の理解に影響を及ぼしているとの意見が出ていました。また、「看取り加算」については、准看護師だと加算が取れないので、「看護師常勤1」などの表現に変更してもらえないのかについては小規模多機能型居宅介護ならではの意見も挙げていました。



FOCUS ケアマネ File 27

「出発点」

居宅介護支援事業所 Komorebi
管理者 眞榮城 紀子

福祉の世界に入ったきっかけ。それは、私が幼少期から少々複雑な家庭環境だったこと。中学校を卒業後、全寮制で、奨学金がある看護学校に入学したことにあります。つまり、きっかけは経済的理由。それだけでした。

そんな私でも福祉について勉強し理解出来るようになってきました。最近、ケアマネの仕事について改めて考える事になった出来事が二つありました。

一つは、二〇二二年十月に不慮の事故で亡くなられた、ドリフの仲本工事が残した言葉です。仲本さんはいくつもの言葉を残していますが、その中に「人生というのは、やりたい事が出来なくなった時が出発点」という言葉があります。この言葉を最初に聞いた時、「そんな風に思えたら最強

の自立支援に繋がるなあ。」と考えました。

二つめは、甥っ子が亡くなった事です。二〇二〇年四月、脳腫瘍と診断されました。段々とやりたい事が出来なくなっていく中で、それでも甥っ子はいつも笑っていました。お風呂にひとりで入る事を諦めず。排泄をひとりですること。歩く事を諦めず。食事を諦めず。意思疎通が出来なくなっても動く足の屈伸運動を、誰に言われるでもなく、ベッド上で続けていました。甥っ子は、やりたい



事が出来なくなった時から、元気な時以上の諦めない強さを手に入れ、その強さに磨きをかけながら闘病生活を送りました。そして闘病の末、二〇二二年十一月。二十七歳という若さで亡くなりました。

ケアマネの仕事もおおよそ「やりたい事が出来なくなった時」という出発点から関わる事が予測されます。実際の現場では、様々な事に対して、意欲が落ちていく人が少なからずいらっしゃいます。「今更出来る事なんてあるものか。」という思いの人が、「今が出発点。」という思いに変わるハードルは高いかも知れません。しかしその思いに向き合う事がケアマネにしか出来ない専門職であると信じています。

自分の人生をどう生きたいかを自分で選び、自分で決定する。その事の尊さ、大切さを改めて噛みしめた出来事でした。きっかけはどうあれ、これから自分のすべきことはこれまで通り、目の前の利用者さんと向き合い続ける事であると信じて歩み続けます。

○事務局だより

ぜひご登録
ください！



●研修会案内メール配信について

研修会案内は、決定次第ホームページでご案内しておりますが、ご自宅宛に案内文書の発送はいたしておりません。

研修会案内配信にご登録いただくと、いち早くメールでお届けいたします。ぜひご活用ください。

ご希望の方は右記QRコードからご登録下さい →



令和5年度 総会について

2023年6月17日(出)開催いたします。会場参加は役員及び地域支部代表者とし、会員の皆様には事前書面決議をお願いいたします。なお、当日はZoomを活用しライブ配信を予定しております。会員の皆様には改めて書面にてご案内いたします。

令和5年度 期間限定 新規入会キャンペーン

令和5年5月31日までにご入会いただくと、入会金1,000円 → 入会金0円！ ※7/31までに会費お振込みの方対象